

2 授業実践

(1) 公開授業研究会

ア 小学部第5学年単一学級の取組

(7) 付けたい力

- 自ら考えて行動する力

(イ) 題材の目標

- 日課や予定、活動内容を理解し、自分で次の活動に向かうことができる。
- 集団の中で自分の役割を意識し、自分で活動に向かい、役割を果たすことができる。

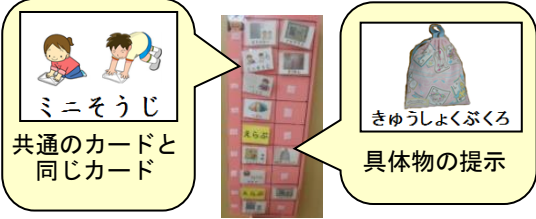
(ウ) 環境づくり

物理的支援環境 ① 教材・教具、支援ツールの効果な配置



自分で道具を準備し、活動に向かうことができるように、係で使う物を入れておく棚を設置したり、机の横に道具を掛けておいたりした。

物理的支援環境 ② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用

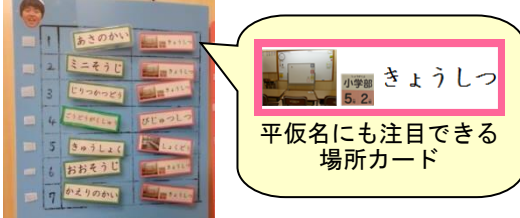


ミニそうじ
共通のカードと同じカード

きゅうしょくぶくろ
具体物の提示

日課や予定を理解し、自分で活動に向かうことができるように、具体物カードを隣に貼った時間割ボードを使用した。

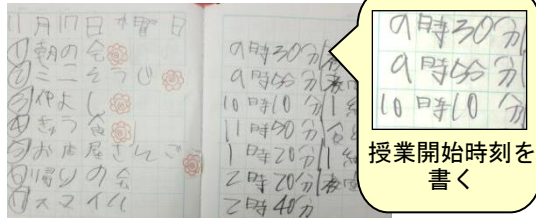
物理的支援環境 ② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用



きょうしつ
小学部 5,2
平仮名にも注目できる場所カード

日課や予定を理解し、自分で活動に向かうことができるように、隣に活動場所を示した時間割ボードを使用した。


物理的支援環境 ② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用



授業開始時刻を書く


日課や予定を理解し、自分で活動に向かうことができるように、時間割ノートに授業開始時刻を記入した。

人的支援環境 ③ 教師の役割



児童の自発的な動きを引き出すために、すぐに言葉掛けを行わず、児童の動きや様子を見守る。また、支援や言葉掛けを行う場面を明確にしておく。

人的支援環境 ④ 児童生徒の役割



一人一役の係活動を行う。また、前の提示物や自分以外の役割にも注目できるように、半円に机を配置した。

(イ) 児童の変容（環境づくりに視点を当てて）

- ・ 個々の課題に合わせた時間割ボードを作成し、常に同じ場所に掲示しておくことで、自分で活動を確認し、次の活動場所に行ったり、必要な物を準備したりする姿が見られるようになった。
- ・ 教師は、すぐに言葉掛けを行わず、児童の様子を見守ったことで、児童同士で活動を促す姿が見られ、自分たちで活動に向かうことができるようになってきた。
- ・ 名前カード付きプログラムの使用や係で使う道具を入れる棚を設置したことで、自分で係活動に向かい、道具を準備することができるようになった。
- ・ 自分から動きにくいときにも、司会児童の言葉掛けによって、活動に向かう姿が見られた。



〈教科書を準備するA児〉

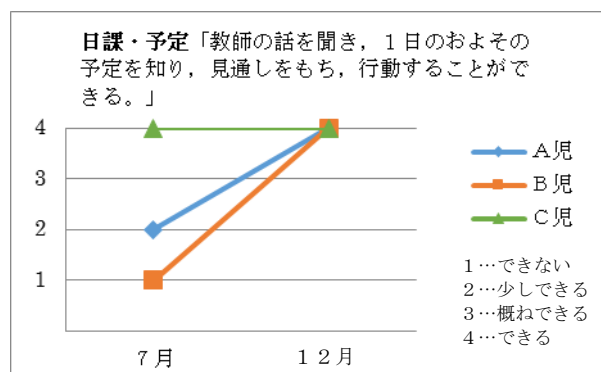


〈自分で係の仕事に向かう児童〉



(オ) 題材全体の振り返り

取組当初は、教師の言葉掛けが多く、本当に自分で動くことができているのか、実はできているのかということが分からなかった。取組を始めてから、すぐに言葉掛けを行わず、児童の様子を見守ることで、目標とする姿のどの段階までできるようになっているのかということが分かり、カレンダーから選ぶ範囲を指定したり、やり取りの場面には教師がつなぎ役となったりして、段階に合った環境づくりの工夫を行うことができた。また、児童一人一人の課題をしっかりと見取り、個々に応じた環境づくりを工夫することで、児童の「わかる」、「できる」姿を引き出すことができた。特に、朝の会で日課の確認を行い、児童が日課や活動場所を理解することで、朝の会だけでなく、学校生活全般において、自分で次の活動を確認し、児童が自ら動く姿も見られるようになった。



(カ) 指導助言

助言者 広島市教育センター指導主事 西田由香 様

児童の「わかった」をどのように判断するのか、より高度なねらいを設定するのか、今できていることを確実にするのか、評価規準を明確にすることが大切である。また、何をねらうのかによって、支援を考えることが大切である。

自立と社会参加を目指すために、日常生活の指導で大切にしたいことは、①児童生徒の実態に応じた指導、②学校生活と家庭生活の一貫性、③生きていく力の拡大の3点である。

今後に向けて、係の仕事を通してかかわりを生むために、正確にやり遂げること、交代する・分担することにも取り組んでいくと良い。教師にとっての「わかる」、「できる」ための支援とは、子どもを「わかる」、子どもの「できる」を信じることである。